

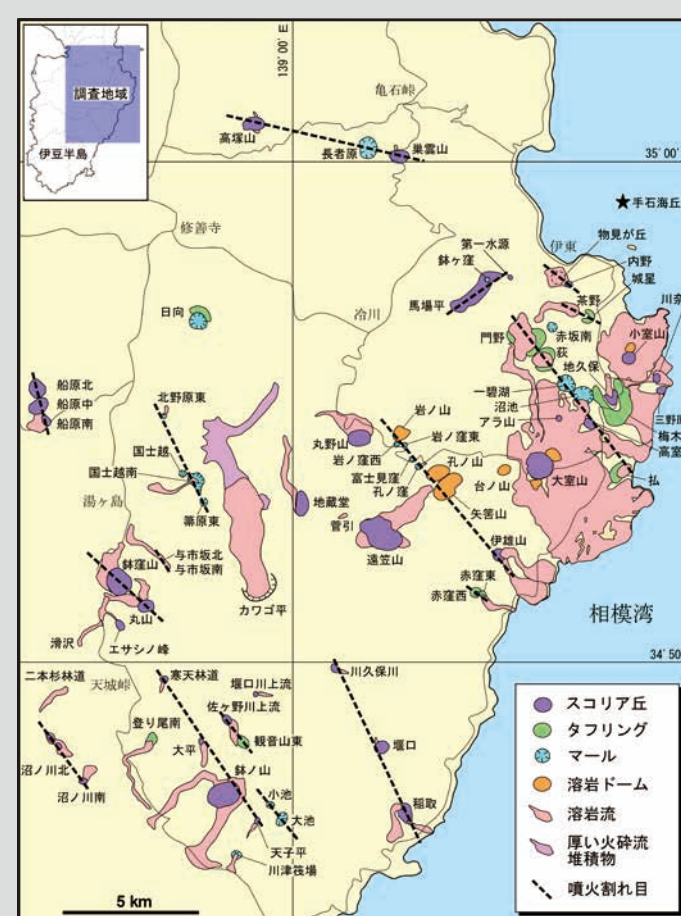
伊豆東部火山群噴火の歴史

History of Eruptions in Izu-Tobu Volcanoes



伊豆東部火山群は、約15万年前に活動を開始した単成火山群であり、さまざまな形を有する小さな火山体の集まりである。特にこの4千年間は規模の大きな噴火が立て続けに発生しており、中でも約3,200年前のカワゴ平の噴火では大規模な火砕流が発生した。1989年7月には、群発地震とともに伊東沖で海底噴火があり、手石海丘が形成された。有史以来初めての噴火であった。

伊豆東部火山群の陸域火山分布と主な火山地形



*1



スコリア(火砕物)が火口周辺に降り積もって形成されたスコリア丘 大室山



大室山の噴火で流出した溶岩城ヶ崎海岸



水蒸気爆発により形成された爆裂火口(マール)一碧湖



カワゴ平の噴火による火砕流堆積物蛇喰川

伊東沖の噴火 1989(平成元)年



1970年代後半頃から群発地震活動が再開し、1989年7月に群発地震とともに伊東沖の海底で噴火。その後も時々群発地震が発生している。

*1 小山真人、鈴木雄介 伊豆東部火山群(東伊豆単成火山地域)の分布・噴火史の再検討(2016年)より
写真提供:左上 左中 小山真人、右上 伊豆半島ジオパーク推進協議会、右中 小林淳、左下 海上保安庁